

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100648		
法人名	有限会社 さとほろ		
事業所名	グループホームさとほろ 3階		
所在地	札幌市中央区宮の森1条6丁目1番16号-401		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	平成25年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170100648&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的でゆったりとした雰囲気を大切にしています。
 ・一人ひとりの認知度や症状、性格や身体状況に配慮し、個々の想い(寂しさや不安…等々)を受け止めながら、一人ひとりに合わせた関わりを心掛けています。
 ・自立支援の姿勢を基本に、一人ひとりの分かる力、出来る力、持てる力の発見、維持、継続に努めています。
 ・ご家族へのこまめな報告、相談をもとに、共に本人を支えていける関係作りを大切にし、日常生活をはじめ、行事等への参加、協力がとても多いです。
 ・職員間での報告、連絡、相談の徹底と共に、細かな記録と申し送りにて情報の共有に努め、よりよいケアの提供を心掛けています。
 ・ヒヤリハットを活用することで、事故を未然に防げるよう取り組んでいます。
 ・職員一人ひとりが、個々の課題を明確にし、更なるレベルアップを意識しながら、勉強会や研修会に参加しています。
 ・夜間三人体制、看護師勤務の定着にて、早期異変の発見と対応、入居者の安心、安全、安楽を守り、合わせて職員の不安、重圧の軽減に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年11月18日		

当事業所は、6階建てマンションの3階、4階をグループホームとして利用し、地下鉄の駅から近く、スーパー、銀行、商店、病院が並び、利便性に恵まれた環境にある。散歩圏内に北海道神宮や円山公園があり、快適な居住環境に立地している。代表者を始め管理者、職員は良好なチームワークのもと、利用者一人ひとりに寄り添い、利用者本位のサービスに徹している。残存能力の維持、向上をはかり、生活の活性化を目指し外出支援等にも力を入れている。医療については提携医の定期的な往診があり、看護師が配置され、健康管理を行っている。夜間は2ユニットに職員3人体制で、利用者、職員が共に安心できる体制を整えている。ターミナルケアについては、家族の意向に沿い、医療機関と連携をとりながら実施している。設立早期より「家族会」があり、毎年家族参加の行事が計画され、親睦と意見交換の場として定着している。運営推進会議は家族会と同日に開催され、会議への家族の参加は多く、討議内容は運営に反映されている。地域とは、各種町内会行事に参加するなど、良好な関係を構築している。また、地域住民等がボランティアとして室内清掃や文化活動に訪れるなど協力を得ており、地域の中で高齢者が安心して暮らせるよう支援している事業所である。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識し、職員全体で意見を出し合い作成した。『地域に根差し、知恵と工夫と創造力を持ち、ゆったりとした毎日が過ごせるよう、ひとりひとりの楽しみと健康と安全を考慮しながら、家族の協力を得つつ学び支えます。』日々、理念の共有と実践を意識し取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえて、事業所独自の理念を作成し玄関、居間等に掲示している。管理者と職員は名刺の裏に理念を印刷して携帯し、日々のカンファレンスや研修において認識を共有して、理念に基づくサービスの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶等は積極的に行い、事業所の存在を知ってもらえるよう努めている。町内会の活動として、総会、春秋のゴミ拾い、花壇整備への参加。夏祭り、保育園の運動会、お餅つきへ入居者の方と参加させてもらっている。ゴミステーションの清掃、管理をさせてもらっている。	清掃、花壇の手入れ、ゴミステーションの管理、もちつき大会などの町内会行事に参加している。近隣保育園の運動会に招待されたり、地域住民や市内の社会福祉法人が運営する施設から清掃ボランティアの協力がある。マンション階も含めた建物全体で協力し、防火訓練を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けての取り組みは、十分には出来ていないが、昨年4月から、介護タクシーの営業を開始し、徐々に地域に浸透していていると思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第二水曜日に運営推進会議、家族会を開催し、報告、情報交換、意見交換、質問の場として定着している。報告書を全ご家族へ、職員へも内容を周知し、日々のケアに役立てサービスの向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議は定期的で開催され、同日に家族会も開かれている。地域包括支援センター職員、民生委員、家族、法人代表、職員が参加し、行事、運営、サービス内容等について討議している。情報、意見交換の場として機能しており、提携医や消防署員からも話を聞いている。会議録は全家族に送付し、討議内容はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者会議に出席、運営推進会議(家族会)の報告、事故報告、他不明な点や疑問点等についても報告、相談をしながら適正なサービスの提供、ケアの質の向上につなげられるよう努めている。	行政担当課職員とは日頃から相談業務や事業所の実情報告で、連携をとっている。市や区主催の会議や研修会に出席し、行政と共にサービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加、内部研修でも繰り返し学ぶ機会を設け、日々のケアや関わりを振り返り、職員一人ひとりが自覚と責任を持ち、身体拘束をしないケアの実践に努めている。マンション玄関はオートロックであるが、各フロアは施錠をせず自由に行き来出来るようにしている。	内外の研修を受け、マニュアルを整備して職員の認識の共有を図っている。職員の何気ない言動についても振り返り、互いに検討し、身体拘束のないケアを行っている。事業所の入る建物がマンションのため1階玄関はオートロックであるが、事業所部分の3、4階各フロアは施錠せず自由な雰囲気大切に安全に配慮しながら見守っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を設けている。入居者の身体の様子は都度記録し、申し送りでも確認している。「もしかして…これって虐待？」という意識と、日々のケアを振り返ることで虐待のないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を設けているが、更に制度の理解を深められるよう学んでいきたい。現在、成年後見制度を利用している方が一名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には契約書や重要事項等で説明し、利用者やご家族の不安や疑問点を聞き、十分な話し合いを心掛けている。また、契約後も連絡、相談をしながら、理解、納得の上サービスを利用して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見や要望をくみ取れるよう意識し取り組み、ご家族に対しては話しやすい環境作りと都度尋ねることに努めている。要望があった時には話し合い、記録に残し、速やかな改善に努めている。また、言いにくい時には外部機関があることも知らせている。	家族会を設置している。運営推進委員会の参加や事業所独自のアンケート調査、面会申込み書による家族意見の記述案内等で、家族の意見を詳細に把握して運営に反映させている。外部への苦情受付相談機関を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議、自己評価、個別面談、日々の勤務に於いて、職員の意見や提案、思いを聞き取るよう努めている。職員一人ひとりが向上心を持って質の高いケアを提供し、入居者の皆さんと共に、学び支え合える関係を築けるよう努めていきたい。	代表者及びホーム長、管理者は職員の意見や要望を日々の話し合いや全体会議、ユニット会議、個別面談で聞き取っている。職員の意見を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休や有給の消化、時間外手当、年2回の賞与、個々の努力や実績に応じた昇給制度をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた採用時研修、毎月の勉強会、現場に於いての実技指導、経験年数に合わせた外部研修義務参加、また、希望による外部研修参加、資格取得を勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区のグループホーム管理者連絡会やスタッフ勉強会に参加し、交流の機会、ネットワークづくりに努めている。同地区のグループホームとは互いに訪問し合えるようになっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの相談、意向が中心となってしまうことが多いが、本人に尋ね、思いを知り、不安の軽減に努め、信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをよく聴き、その思いを受け止め、安心してもらえるよう、こまめな報告、連絡、相談にて信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望されて来られるケースがほとんどであるが、相談時には本人、家族の思いを聴き、必要時には他のサービスの説明もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす時間の中で、人として気づかされ教えられることがたくさんある。先に歩み、多くの苦労と多くのものを築いてこられた人生の大先輩として、常に敬う気持ちを持ちながら、互いに学び支え合う関係を築いていきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支えていきたいことを伝え、さまざまな場面で、そうあれていることを実感している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会は頻回にあり、親戚や知人の面会もある。重度化やご家族の高齢化や病気等により、馴染みの場所への外出の機会は少なくなっている。	家族は面会のため度々事業所を訪問している。知人、親戚の訪問も多く、来訪者が居室でゆっくり寛げるよう配慮している。家族と共に墓参りに行ったり、馴染みの場所や親しい人々との絆が続くように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの認知度や性格、関係等に配慮しながら、共に穏やかに楽しく過ごせる時間の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所された方へは、お見舞いに行き関係を継続している。また、死去により退所されたご家族の訪問、差し入れを頂いたり、手紙のやりとり等できつなかりを大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、よく話をすることを心掛け、希望や意向の把握に努めている。また困難な方にも日々の様子や表情、言動などから思いをくみ取るよう努め、ご家族、職員と相談しながら本人の思いに添えるよう努力している。	一人ひとりに寄り添い、話を聴き、表情や行動から本人の意向や希望の把握に努めている。家族からも情報を得て、職員間で情報を共有し、本人の視点に立ちチームとして統一したサービスを提供するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りと合わせ、可能な限りの情報提供をお願いし、その後もご家族、本人とのコミュニケーションから把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケアプランに添った関わり記録、個別の申し送りや引き継ぎ等を通して心身の状態や言動、新たな気づき等の把握に努め、情報の共有につなげている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人(可能な方)、ご家族、主治医、看護師と相談しながら、担当職員を中心に、毎月のフロア会議で話し合い、介護計画を作成している。	本人、家族の意向を尊重し、担当職員を中心に医師、看護師、介護福祉士、職員全員が毎月の会議等で話し合い介護支援専門員がまとめている。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、変化が生じた場合は随時見直しして介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを反映した日々の記録や評価、その時々気づきや工夫、実践方法や結果など、個人申し送りや介護日誌を通して、個々の状況や情報を共有し、アセスメントや介護計画の見直しに活かし日々のケアにつなげている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・夜勤三人体制の定着。 ・事業所の介護タクシーを利用した受診や外出支援。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事には積極的に参加し、ボランティアの受け入れ、民生委員、消防の方には運営推進会議や避難訓練にて協力を得ている。また、ご家族と共に演奏会に行く等、社会とのつながりを大切にしていけるよう支援に努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、協力病院を伝え変更希望を確認し、変更の際には医師からの添書で医療の継続を支援している。また、受診時のご家族の同行や受診後の報告でも適切、安心した医療が受けられるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常的な健康管理、さまざまな症状について相談、処置、指導等を受け支援している。受診や往診時には看護師が窓口となり、医療機関と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を提出し、出来るだけ面会に行き、本人が安心して治療を受けられるよう、病院関係者と情報交換を行い、早期退院が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行けることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプラン見直しの際、または状態の変化に伴い、現状と今後考えられる状況、ホームで出来ることについてご家族に説明し、意向を確認、書面にて同意を得ている。また状態に合わせてご家族と医師、看護師と話し合いの場を設け、全職員が方針を共有出来るよう都度話し合い取り組んでいる。	入居時に本人、家族の意向を聞き「重度化した場合における対応に係る指針」の文書に署名、捺印をもらっている。状況に変化が生じた場合は家族の意向を確認し、医師、看護師、関係者、職員と話し合い、情報・方針を共有して医療連携を取りながら、看取りの実施を含め最善の方法がとれるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会議や勉強会、外部研修等で学ぶ機会を設け、確認し合っているが、まだまだ十分とは言えない。全職員が対応出来るよう更に学びの場を設けていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や町内会の方の協力を得て、年2回夜間、日中の出火を想定した避難訓練、救助方法の実践を入居者（可能な方）と一緒に、地震時の対応、避難方法についても確認。また、マンション内での消火器の実践や外部研修に随時参加し実践訓練を行っている。	年2回消防署指導の下、避難訓練を実施している。マンション内の防火訓練に参加し、近隣住民に協力を依頼している。室内の電気器具や暖房装置等を点検表で毎日チェックしている。スプリンクラー、自動火災通報装置が設置されている。	マンションの構造や利用者の高齢化により、災害時の避難については介護者の手が多く必要なことが予想される。防災や避難経路の確保と確認については、毎年継続して実施するよう徹底し、他の自然災害についても配慮することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者の立場に立ち、言葉かけや対応に気を付けることを心掛けてはいるが、配慮に欠けてしまうこともあると思う。お互いに注意し合える関係作りに努めていきたい。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、職員は利用者への言葉かけや対応に配慮している。個人情報記載の書類は扉のある書棚に保管し、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた話し方や問い掛けの工夫で、希望や選択を表現出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの流れが決まってはいるが、その時々気分や体調に合わせて、優先順位を正しく見極め、楽しみや励みにつながる関わりを意識し、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	尋ねることを心掛け出来るだけ一緒に選べるようにしている。洗面後や入浴後の整容や、外出時のお化粧等でおしゃれを楽しめるよう努めている。現在、理美容室の利用は難しく、訪問美容を活用している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を献立に反映させたり、個々の力量に合わせ、下ごしらえ、味見、盛り付け、下膳、食器拭き等と一緒にいき、会話も大切にし、楽しい食事時間の共有を心掛けている。	献立は利用者の好みを取り入れ、各フロアで作成している。利用者は、力量に応じて食事の準備等を手伝っている。職員は利用者と同じテーブルに着き、話しかけ、時には介助しながら楽しく食事が摂れるよう支援している。食器は家庭的な雰囲気に配慮した物を使用している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や性別、活動量や体重の安定を配慮し、量や栄養のバランス、一品目でも多く摂取出来る献立を工夫し提供、毎日の飲食量を記録している。また、個々の状態に合わせ食べれる時に食べられる物の提供。目でも楽しめる内容、楽しく食せる雰囲気作りも心掛けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に必要な内容(見守り、一部手助け、歯間ブラシや舌ブラシ等の活用)で口腔ケアを実施している。また、希望者には定期的に訪問歯科衛生士による口腔チェック、口腔清掃、嚥下体操等を受けている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、必要最小限のパンツ使用を心掛け、水分摂取量も考慮しながら、一人ひとりに合わせた誘導と手助けで失敗につながらないように支援している。	個々の水分摂取量及び排泄記録表を作成し、排泄パターンを把握している。表情や動作からもタイミングを伺い、それとなくトイレへ誘導し、トイレでの自立排泄に努めている。日中は全員布パンツ使用である。夜間は居室でポータブルトイレを利用するなど、自立へ向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握しながら、飲食物の工夫や運動も取り入れ、腹部マッサージ等も行い便秘予防に努めている。また、高齢や重度化に伴い自然排便の難しい方も増えているため、医師の指導のもと服薬の調整でコントロールしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後入浴を基本に、体調や気分に合わせて、皆が平均的に入浴出来るようにしている。また、汚染等が必要時には臨機応変に対応出来るよう支援している。	基本的には週2回以上の入浴を行い、体調や希望、タイミングに合わせている。清潔、安全を考慮して浴室環境を整備し、快適に入浴できるよう配慮している。湯船でゆっくり出来るよう努めるとともに、個々の体調により清拭、足浴、シャワー浴も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、年齢、生活リズムを考慮しながら、温湿度や寝具、衣類、周囲の音や臭い等にも配慮し安心して休息、眠れるよう支援している。また、夜間眠れない時には、寄り添い傾聴、スキンシップ、安心出来る場所への移動や飲み物の工夫等に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は複数で行い、可能な限り本人にも確認してもらっている。処方箋や申し送りにて目的、用法、副作用等の理解に努め、薬が変わった時には特に注意を払い、変化のある場合には医師、看護師に報告、相談し適切な処方への支援に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る力を発揮出来るよう、会話、作業、レク、趣味や特技を活かせ時間と場の提供に努め、役割りや楽しみごとを自信や励み、喜びや楽しみにつながるよう支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には散歩や日向ぼっこ、買い物、農園での収穫、ドライブ等で外気に触れ季節を感じ、気分転換が出来るよう支援し、ほぼ毎月季節に応じた外出行事の実施と合わせ、さとう三大行事(新年会・お花見・敬老会)では、ホテルや回転寿しで、ご家族と共にご会食を楽しんでいる。	春から秋は近くの円山公園や神社の森への散歩を楽しみ、新年には初詣に出かけるなど季節に合わせて外出している。ドライブで郊外のポニー見物や、レンタル農園での畑作業など気分転換を図っている。新年会やお花見など家族参加の行事を毎年実施し、家族と共に楽しめる会となっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化に伴い自己管理は難しく、基本的にはホーム立て替え、後日請求にて対応しているが、本人が安心出来るように、ご家族と相談のうえ所持されている方もおり、お孫さんの面会時にはお小遣いをあげる等されている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近況を知らせる手紙の支援や、希望時には電話をかけ、ご家族からの電話を仲介する等している。また、毎年個々の写真入り年賀状を作り、ご家族へ送っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が狭く限りはあるが、家庭的な雰囲気を大切にしながら、入居者と一緒に制作した物や個々の写真を飾ったり、季節ごと、行事ごとの飾り付けを工夫し、生花等で四季を感じ心地よく過ごせるよう工夫している。また、その時の状況に合わせてCDやFM放送で音楽を流している。都度の換気や消臭剤の使用で室温や臭いにも気を付けている。	居間には木の温もりのある大きなテーブルを設置し、皆が集まり食事するなど団らんの場となっている。隣室の小部屋にはテレビをゆっくり見られるよう、ソファを置いている。室内には利用者の作品が飾られ、時計やカレンダー、窓の景色等で時や季節を感じることができる。採光、換気、温度、湿度も適切で外からの騒音はない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安心、安全を考慮しながら、狭いながらも玄関やテレビ室にソファを置き工夫を心掛けている。また、食卓での席もその時々状況に合わせて交換する等で落ち着いてくつろげるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごせるよう、自宅で使用していた家具や装飾品、家族の写真等、ご家族の方にコーディネートしてもらおう等で、心地良い空間作りの工夫をしている。	居室には使い慣れた家具や仏壇を持ち込み、家族写真を飾り安心して暮らせるよう配慮されている。一人ひとり個性のある部屋となっており、ソファ等を配置し家族と共に寛げるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	賃貸マンションで、改築型のホームのため限りはあるが、手すりの設置、安全を考えた踏み台、滑り止め、家具の配置や高さ等の調節で工夫しているが、重度化に伴い改善も必要と思う。			